令和6年度

外部講師を活用したがん教育等現代的な健康課題理解増進事業 事業成果報告書

【外部講師を活用して実施するがん教育の推進に係る取組】

1 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

【がん教育検討委員会（9名）】

（医療関係者）医師（検診管理指導監：消化器内科）1名、大学教授（腫瘍内科）1名、
医師（内科）1名、大学教授（看護学）1名、
県の保健担当部局員（がん・生活習慣病対策課）1名

（学校関係者）小学校・中学校・高等学校長各1名（計3名）

（事務局）県学校保健担当部局員（スポーツ健康課）1名

【がん教育検討委員会ワーキンググループ（13名）】

（医療関係者）大学教授（看護学）1名

（学識経験者）大学名誉教授（教育学）1名

（学校関係者）小学校養護教諭3名、中学校教諭1名・養護教諭2名、高等学校養護教諭2名、
教育事務所学校保健担当指導主事3名

2. 開催時期、検討内容

【第1回青森県がん教育検討委員会（令和6年10月23日）】

○学校におけるがん教育を推進するための資料作成等について

令和5年度にワーキンググループにおいて作成した「学校におけるがん教育年間指導計画例」を参考に、各モデル校において年間指導計画を作成して試行的に取り組み、より活用しやすいものとなるように改善していくこと等を検討した。また、青森県がん教育指導用補助資料の改訂について、がん・生活習慣病対策課と連携し、信用性のあるデータを活用する等、科学的根拠に基づいて更新する必要があることや、「学校における年間指導計画例」と併せて活用できるようにすること等を検討した。

○外部講師確保のための体制の構築について

外部講師リストの作成に当たり、学校が外部講師を選択しやすいリストを作成することや学校への周知方法等について検討した。また、指導者の質の向上等についても課題としてあげられた。

【第2回青森県がん教育検討委員会（令和7年2月3日）】

○学校におけるがん教育を推進するための資料作成等について

ワーキンググループで検討し、修正した「学校におけるがん教育年間指導計画例」について報告した。また、青森県がん教育指導補助資料の修正箇所を報告し、補助資料データの活用や周知方法について検討した。

○外部講師確保のための体制構築について

ワーキンググループで検討し、修正した外部講師リスト等について報告した。リストへの掲載依頼先や依頼方法、配慮事項等の周知について検討した。

○今後の学校におけるがん教育について

がん教育の進め方について（がん教育推進ロードマップ）

【第1回青森県がん教育検討委員会ワーキンググループ（令和6年10月28日）】

- 各校の取組状況について
- 第1回がん教育検討委員会の報告
- 学校におけるがん教育を推進するための資料作成等について
 - ・「学校における年間指導計画例（令和5年度作成）」について、自校の年間指導計画作成時の活用状況や職員への周知方法等について協議を行った。協議を受け、次回ワーキンググループにおいて校種ごとに「学校における年間指導計画例」の見直しや検討を行うことを確認した。
 - ・青森県がん教育指導補助資料等の活用状況等について協議を行った。データの更新を含め、文章表現等についても見直しを行い、次回ワーキンググループにおいて修正が必要な箇所について検討することを確認した。
- 外部講師確保のための体制構築について
 - ・各校における外部講師活用状況等について協議を行った。また、外部講師リストについて、学校が活用しやすいリストを作成するために必要な項目等について、次回ワーキンググループにおいて検討することを確認した。

【第2回青森県がん教育検討委員会ワーキンググループ（令和6年12月4日）】

- 学校におけるがん教育を推進するための資料作成等について
 - ・各校で作成した年間指導計画を参考に、校種ごとに「学校における年間指導計画例」の見直しや協議を行った後、全体で協議を行った。
 - ・青森県がん教育指導補助資料等のデータ更新や文章表現等について見直しを行い、修正が必要な箇所について協議を行った。
- 外部講師確保のための体制構築について
 - ・外部講師リストについて、学校が活用しやすいリストを作成するために必要な項目や活用の仕方等について協議を行った。

【第3回青森県がん教育検討委員会ワーキンググループ（令和7年1月21日）】

- 学校におけるがん教育を推進するための資料作成等について
 - ・第2回ワーキンググループの協議を受けて修正した「学校における年間指導計画例」について確認及び協議を行い、「学校における年間指導計画例」を作成した。
 - ・がん・生活習慣病対策課の協力及び第2回ワーキンググループでの協議を受け、データ更新や修正を行った青森県がん教育指導補助資料等について、確認及び協議を行った。
- 外部講師確保のための体制構築について
 - ・第2回ワーキンググループでの協議を受けて修正した外部講師リストについて確認し、リストの活用方法や周知方法等について協議を行った。

② 教育委員会としての取組

1. がん教育検討委員会とワーキンググループの開催

検討委員会及びワーキンググループにおいて、「学校における年間指導計画例」の作成、令和2年度に作成した青森県がん教育指導補助資料等の改訂や資料活用のための方法、外部講師確保のための体制づくり等について協議を行った。

2. がん教育推進のための講演会の実施（令和7年1月23日）

教員及び市町村教育委員会担当者等を対象に、がん教育への理解を深めるため、「学校におけるがん教育の考え方・進め方」と題し、聖心女子大学現代教養学部植田誠治教授による講義をオンラインで実施した。また、県教育委員会より参加者に対し、指導補助資料等の紹介やモデル校における外部講師を活用したがん教育の実施状況等の情報提供を行った。

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

1. 青森県がん教育指導補助資料のデータ更新

県で作成した青森県がん教育指導補助資料及び青森県がん教育スライド補助資料について、がん・生活習慣病対策課と連携し、資料のデータ更新を行った。また、資料の活用に向けて、教員対象のがん教育研修会において、指導補助資料等を紹介し、がん教育の推進と資料の活用を促した。さらに、最新の情報に更新された指導補助資料等をホームページでダウンロードできるようにし、各学校へ周知するとともに、令和7年度以降のワーキンググループで、有効活用できているかを確認することとしている。

2. 外部講師リストの作成について

現在、外部講師のリスト化ができていないため、過去の講師を繰り返し活用している状況であることから、学校の実情等に応じて外部講師を選定できる候補者のリストを整備するとともに、外部講師の活用手順・留意事項についても整理していく必要がある。県の事業で活用している外部講師に加え、がん診療連携拠点病院や医師会から情報を提供していただき、リスト化を進めると同時に、外部講師の依頼方法や留意事項等について整理し、各学校に周知を図ることとしている。

(2) 外部講師を活用したがん教育の授業

① むつ市立関根小学校

対象者：全校児童、保護者、教員、学校運営協議会委員、関係機関

実施時間：特別活動（学校行事） ※学校保健委員会（参観日）

テーマ：「がんといのち」

内容：がん専門医でもある大学教授による講演会を開催し、聴講後はグループワークを実施

② 平川市立柏木小学校

対象者：5・6年生

実施時間：特別活動（学校行事）

テーマ：「がんといのち」

内容：がん専門医でもある大学教授による講演会を開催

③ 十和田市立東小学校

ア 対象者：5年生

実施時間：特別活動（学校行事）

テーマ：「がんとは」

内容：看護系大学教授による講演会を開催

イ 対象者：6年生

実施時間：特別活動（学校行事）

テーマ：「がんとは」

内容：がん専門医による講演会を開催

④ 青森市立甲田中学校

対象者：全校生徒

実施時間：特別活動（学校行事）

テーマ：「小児がんの闘病生活～わが子の死と向き合って～」

内容：がん患者の家族による講演会を開催

⑤ つがる市立森田中学校

対象者：全校生徒

実施時間：特別活動（学校行事）

テーマ：「がんについて知ろうーいのちのはなしー」

内容：がん専門医でもある大学教授による講演会を開催

⑥ 八戸市立鮫中学校

対象者：全校生徒

実施時間：特別活動（学校行事）

テーマ：「ピロリ菌と胃がん」

内容：がん専門医による講演会を開催

⑦ 青森県立木造高等学校

対象者：3年生

実施時間：特別活動（学校行事）

テーマ：「がんと共に生きる時代へーがん医療の進歩とその現実ー」

内容：治験管理室看護専門官による講演会を開催

⑧ 青森県立八戸北高等学校

対象者：2年生

実施時間：特別活動（学校行事）

テーマ：「がんについて知ろうーいのちのはなしー」

内容：がん専門医でもある大学教授による講演会を開催

2 事業の達成度について

(1) 検討委員会

検討委員会では、がん教育を推進するための指導用補助資料の改訂やがん教育年間指導計画例、外部講師のリスト化について検討した。また、関係部局やがん診療連携拠点病院、学校関係者が意見交換を行うことで、各々の取組内容等を共有し、今後の効果的な指導法や連携の仕方について考えることができた。

検討委員会終了後のアンケートにおいて、「学校の取組に対し、協議会として十分な支援を行えた」と回答したのは3名（検討委員会9名中6名回答）で、「各学校でがん教育に取り組んでいく際の意見交換を踏まえ、今後必要な支援や課題を見出すことができた」「昨年度より資料等が整理され、現状と課題、対応策を具体的にイメージしやすく、議論が進んだ」等の意見が出され、「進捗はしているが、成果が出るのはこれからである」「学校現場においてがん教育の推進を努めていかなければならないと強く感じた」等、今後、継続して取り組むことの必要性もあげられた。

(2) ワーキンググループ

学校全体でがん教育を効果的に進めるために、令和5年度に作成した「学校におけるがん教育年間指導計画例」を参考に、モデル校において年間指導計画を作成し、体育・保健体育科の授業以外の道徳や特別活動等でがん教育を進め、評価し、改善することができた。

ワーキンググループ終了後のアンケートにおいて、「学校の取組に対し、協議会として十分な支援を行えた」と回答したのは12名（検討委員会13名中13名回答）で、「年間指導計画例の作成や具体的な指導の在り方などについて協議したことで、実際に授業を行う時の問題点や重点項目を明らかにすることができた」「現場の声を踏まえ、発達の段階に応じた資料や学習方法等を検討し、充実を図ることができた」等の意見があげられた。

(3) がん教育推進のための講演会

講演会後のアンケートより、講師による講義や本県のがん教育に関する情報提供について「大変参考になった」「参考になった」と回答したのは20名（参加者30名中20名回答）であった。

＜参加者の感想（一部抜粋）＞

・がん教育を進めていくに当たっての項目や順序などを知ることができた。保健分野だけではなく、特別活動や道徳の時間も活用し、がん治療や緩和ケアなどについても触れることが大事だということがわかった。

- ・学校におけるがん教育の推進には、カリキュラム・マネジメントが重要だと感じました。分かりやすく教えていただき、勉強になりました。ありがとうございました。
- ・先進的な取組を学ぶことができ、とても参考になった。死亡原因の1位である「がん」に対して、小・中学生のうちから正しい知識を身につけていくことで、がん検診率が高まり、早期発見・対応することができると感じた。周囲には、がんと戦っている方・がんで亡くなっている方がいるが、授業する上ではそういった配慮も十分行いながら進めていかなければならないと感じた。多くの学びをありがとうございました。
- ・学校で健康教育に割ける時間は限られていますが、道徳でもがんを命の教育と捉えれば進めていきやすいと感じました。また、喫煙予防教育等によって喫煙率が50年という長い時間をかけて低下したように、がんという病気も長い目で見て、がん教育や社会的なアプローチから良い方向に進んでいけば良いのだと改めて思いました。紹介していただいた手引きや実践事例を参考にして自校でできるがん教育に取り組んでいきたいと思います。
- ・がん教育の位置付けや目標・評価、また学習する学年や内容等、詳しく御講義いただき、理解が深まりました。ソーシャルクルージングの考えに近づくための教育ということが印象に残りました。今後、指導に活かしていきたいと思います。
- ・がんについて漠然と「こわい」というイメージを持っているこどもは多いと思いますが、それがどんな病気でもどんな予防が必要かを小学生のうちに正しく知ることの大切さを再確認できました。そして、保健の授業だけでなく、特活や道徳などの授業で横断的に学習できる機会をつくり、がん教育を通じて健康や命の大切さを学び、将来健康的な生活を送ることができるこどもを育成していきたいと思います。
- ・校内で年間指導計画を立てて、がん教育を進めていくことが大事だと思った。がん教育指導用補助資料をしっかりと活用していきたいと思った。
- ・青森県におけるがん教育の実態について知ることができとても参考になった。
- ・青森県で行っている外部講師によるがん教育の取組を知ることができたので、今後の教育活動で外部講師をお願いするときの参考にしたいと思います。
- ・青森県の短命県返上のため、がん教育は低年齢から必要と日頃から感じているところです。いざ、現場に出ると時間の確保で戸惑いますが、データや紹介いただいた資料を活用していきたいと思います。

3 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題等）

- 学校におけるがん教育を推進するために作成及び改訂した資料等を学校に周知し、学校全体でがん教育について共通理解を図って取り組めるよう、現場で活用しやすい資料の作成等について引き続き検討していく。
- 学校のニーズにあった外部講師の選定と外部講師の確保や質の保障のため、関係部局と連携し、リスト化を進めていく。